



さわやか トカラ情報

〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL099-227-9771

発行
十島村教育委員会

【笑いの中にプラス思考のエネルギーあり!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

◎ 「ユーモアや笑い」でアイデア創出・リラックス・説得力アップ

厳しい局面の時こそ「ユーモアや笑い」のセンスを! 以前、ビジネス雑誌(『プレジデント』)で「大笑いすると、創造力が3倍になる」という記事を読んだことがあります。

ユーモア学を専門とする文京学院大学大学院の大島希巳江准教授によれば、「日本のビジネス界にも『ユーモアを活かす』という考え方に、徐々に注目が集まり始めている。」というのです。

高い利益率や顧客満足度で知られているアメリカの格安航空大手のサウスウエスト航空は、ユーモアのセンスがあることを採用条件にしていることでも知られています。

同社では、ある年のパイロット採用面接のときに、スーツを着た面接者を前にしてバミューダパンツを並べ、「そんな堅苦しい格好をしていないで、これに着替えたらどうだね?」と勧めたそうです。怒って帰ってしまった受験者もいましたが、喜んで着替え、ネクタイとバミューダパンツというおかしな格好で楽しみながら面接を受けた受験者は、全員採用されたということです。日本の企業や公務員試験では考えられないことです。

ある時、サウスウエスト航空の客室乗務員が、ラップで機内アナウンスして話題になったことがありました。そんなこととして、お客さんから「ふざけている」だとか「不快」だとかクレームを受けたらどうするだろうかと気になるのですが、なんと、「もし気に入らないなら、別の航空会社を利用してください」と、彼らは丁寧に答えたというのです。

同社には「仕事を楽しむ」とか「空の旅を楽しんでもらう」という文化があります。社員が自ら楽しみながらお客さんを楽しませようと行動しているなら、会社は全面的に社員を支持するのだそうです。

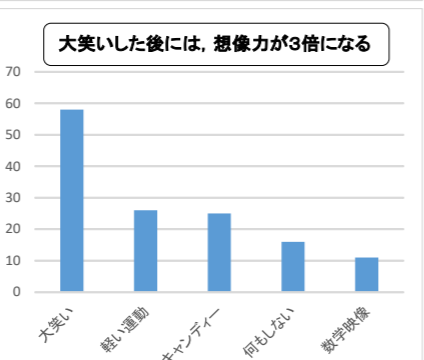
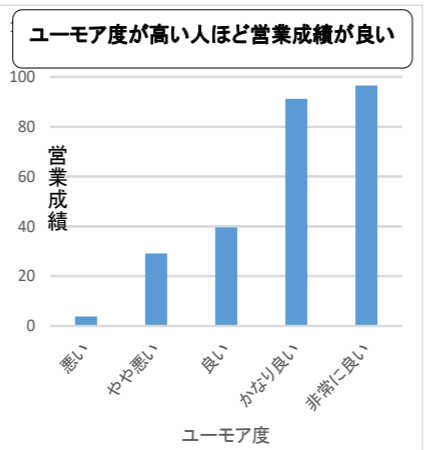
ユーモアのある人は、変化対応力があり、プレッシャーの中でも落ち着いて行動でき、チームワーク能力に長けたタイプが多いというデータもあるようです。この会社がこんな採用面接を行ったのには、そんな人間科学的な裏付けがあったのです。

彼らが大事にする「笑いやユーモア」は、他人を見下したり傷付けたりする類のものでないことは言うまでもありません。個人の気の緩みや、組織力低下につながるようなものでもないのです。

上のグラフは、米国バルチモア大学アリス・アイセン教授の研究結果です。「ユーモアや笑い、ともすれば常識に縛られがちな固定した思考を打ち破り、新しい発想を生み出す原動力となる」と主張される根拠がこのデータにあります。

学園や島内から「笑い」がこぼれるのは実に素晴らしいことだと思います。そこから互いの意欲が高揚したり、気持ちが楽になったり、仲間意識(組織力)が高まるきっかけとなったりした経験があります。

目の前の困難に疲れそうになったときこそ、「心地よい笑いやユーモア」を添えてみてはいかがでしょうか。



十島村で学ぶ

【鹿児島市郡総体陸上競技大会に出場して】
宝島学園9年 田中光結

宝島で過ごす最後の年、私は中学校体育連盟主催の鹿児島市郡陸上競技大会に砲丸投げで出場しました。大会への出場のきっかけは、中学校を卒業するまでに、何かスポーツの大会に出場し、自分の新たな強みや一面を発見したいと考えたからです。

担任の先生、後期課程の先生方との練習は5月から始まりました。大会までの練習の期間は短く、途中には後期課程の修学旅行も計画されていたため、私は内心とても焦っていました。先生方は忙しい中、授業後に練習の時間をつくってください、砲丸投げのことを陸上競技について素人の私にも分かりやすく指導をしてくださいました。先生方は、私の動きや体格に合った練習メニューの設定、ICT機器を活用したフォーム練習などの工夫をしてくださりました。何より先生方の「記録向上を共に喜んでくださる優しさ」に支えられながら、2週間という短い期間で2m近く記録を伸ばすことができました。

大会当日、初めての陸上競技の大会、他の選手たちの投擲(とうてき)、宝島学園のグラウンドとは違う雰囲気、私は押しつぶされそうになりました。競技場に入り、練習投擲(とうてき)でも上手いかず、苦しいと感じた時、学校や港で応援の声をかけてくださった島民の方々や、練習に付き合ってくださった先生方の顔や言葉が思い浮かび、私の心を支えてくれました。本番は練習投擲(とうてき)の時よりも記録を伸ばすことができずでしたが、4位入賞を果たし、無事、鹿児島県総体出場を勝ち取ることができました。

今回の経験は、来年3月に島を旅立つ私自身の成長、そして私の人生の大きな糧になったと感じます。7月の県総体に向けて、応援して下さる島民の方々や先生方の思いを胸に、これからも練習に励みたいと思います。



令和7年5月14日 南日本新聞「若い目」

田知行さんに感謝

平島学園8年 小和瀬 栞

5月11日は母の日でした。十島村には生花店がないため、自分で買うことはできません。

鹿児島市で生花店を経営する田知行義久さんが40年以上、カーネーションを送り続けてくださっていたため、毎年、母にカーネーションを贈ることができました。本当に感謝しています。

「いつもありがとう」と日ごろの感謝を伝えながら、田知行さんにいただいた花を母に渡していました。母はとても喜び、すぐに飾っていました。ドライフラワーにしているときもありました。

母の笑顔を見ると、田知行さんのおかげで母の日にカーネーションを渡すことができていたと実感しました。

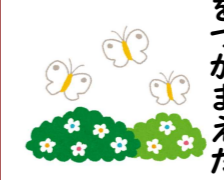
田知行さんの活動は今年で一区切りになるそうです。来年から渡すことができるか分かりませんが、それ以外のことで母に感謝を伝え、少しでも手伝えたらいいなと思います。



楽しい虫とり
中之島学園三年 久木山 晴

子供のうた
(五月十一日
南日本新聞掲載)

ちようちよを見つけた
いっばいおいかけて
やっとなつかまえた
きれいでかわいいなあ
お花をいれて休ませたら
元気がなったよ
かんさつしてたら
ちがうちようちよをつかまえた
きれいだなあ
またつかまえた



悪石島子ども会への助成

2025年度ニッセイ財団児童・少年の健全育成助成団体として先日県庁にて贈呈式が行われました。子ども会における異年齢による活動(対馬丸慰霊祭など)に対しての助成となります。



【中之島学園からのメッセージ】 中之島学園 教諭 山本 寛大

「うがみんしょうらん」(こんにちとはという奄美の方言)。2年前、新任教職員歓迎会で私が自己紹介中、不意に島民の方から投げかけられた言葉です。私は何か返さないといけないと思い「ありがたさまありょうた」(ありがとうございます。感謝の意味)と手を合わせ笑顔で返すことが一杯でした。聞けば毎年、新任の先生方にこの言葉を投げかけ、その反応を楽しんでいるとのこと。これまでも島民の方々が、新任の先生方を温かく迎え入れてきたんだらうなと想像できるエピソードでした。

十島村すべてに言えることだと思いますが、教職員の中の島での学園生活や島民としての日常生活は、島民相互の協力体制の中で成り立っています。フェリーの荷受けから運動会や文化祭、子ども会行事、温泉掃除、地区の清掃活動などなど。本当に島民の方々の協力体制の素晴らしさを日々実感しています。

土日の活動も多いですが、個人的には、無理しすぎない事を周囲に理解して貰いつつ活動するのが良いのかなと思っています。(健康が一番です。)

最後に私の中の島での癒しの風景を紹介します。一つ目は中之島学園の前期課程棟2階、3・4年生教室から望む諏訪之瀬島の景色です。どこかで見た懐かしい風景を思い出します。二つ目は日之出地区の歴史民俗資料館とトカラ馬牧場に挟まれた直線道路です。本当に素晴らしい真っすぐな道です。中之島にお越しの際はぜひ。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

1学期も半分が過ぎました。忙しい日々だと思いますが、十島村でお互いに支え合って生活している一島民、チーム十島村としての思いを胸に頑張っていきましょう。